0歳児

【0歳児】 6か月未満

子どもの姿	・空腹になると泣いてミルクを求め、 抱かれて飲む。　※離乳食については、「伊丹市の離乳食のすすめ方」参照 ・首がすわり、 頭を持ち上げたり、 寝返りをしたり、 手足の動きが活発になる。 ・昼夜のリズムが確立し始める。 ・おむつが汚れたときは泣いて知らせる。 ・目の前の物をつかんだり、 口に入れようとしたりする。 ・身近な大人に対する基本的信頼感が芽生え始める。 ・物の動きを追視したり、 音のする方向を向いたりする。 ・あやしたり、 話し掛けたりすると声を出して笑う。
生命の保持・情緒の安定	○睡眠時の呼吸、顔色、姿勢やベッド周りの安全に留意し、決められた時間毎に様子を確認し、記録する等、安全管理を徹底する。 ○保育者の愛情豊かで受容的な関わりにより、情緒の安定を図り心地よい生活ができるようにする。
ねらい	◎あやされたり、声を掛けられたりすると声を出し喜ぶ。 ◎身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ◎安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ◎身の回りの物に親しみ、様々な物に興味関心をもつ。
内容 健やかに伸び伸びと育つ（身体的発達） 身近な人と気持ちが通じ合う（社会的発達） 身近なものと関わり感性が育つ（精神的発達）	・お腹いっぱいミルクを飲み、 安心して眠り、 心地よい生活リズムで過ごす。 ・おむつが濡れたときは、 おむつを交換してもらい、 気持ちよさを知る。 ・授乳の前後は、 顔や手を拭いてもらい、 心地よさを感じる。 ・握る、 つかむ、 しゃぶる等の動きを十分行い、 手のひらに触れた物を握り、 振って遊ぶ。 ・一人一人の生活リズムに応じて安全な環境の下で十分に午睡する。 ・特定の保育者とスキンシップをとりながら、 安心して過ごす。 ・優しく声を掛けてもらったり、 名前を呼んでもらったりすることを喜ぶ。 ・大人の語り掛けに喃語（なんご）で応えたり、 声を出して笑ったりする。 ・一人一人の生活リズムや体調に合わせ、 短時間の外気浴をする。 ・抱っこ、 腹ばい、 支えられて座る等、 体位を変えてもらうことで、 視野が広がり周囲に関心を示す。 ・快、 不快の気持ちを声や泣き声で表す。 ・動く物や音の出る物を目で追ったり、 聞いたりして喜ぶ。 ・保育者にいろいろな歌を歌ってもらったり、 触れ合い遊びをしてもらったりして手足を動かして楽しむ。
環境構成	・子どもの情緒の安定や身体的な発達に合わせて、色彩やベッドの配置などの保育室環境を整える。 ・気候に応じて、 室内の温度、 湿度、 換気等の調整をし、 快適に過ごせるようにする。 ・口に入れても安全な玩具を用意し、 毎日、 玩具の消毒や床の消毒などを徹底し、 衛生面に配慮する。 ・睡眠時、 保育者は保育室から離れることなく、 環境条件や寝具の掛け方に注意すると共に、 呼吸や顔色等状態をきめ細やかに観察、 記録する。 乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防をする。 ・見る、 聞く、 触れるなどの経験が豊かになるように、 握りやすい物や音のなる物、 硬さや感触の違う物等の遊具を用意し、 様々な感覚が楽しめるようにする。 ・語り掛け、 わらべ歌、 触れ合い遊び等でスキンシップを大切にし、 大人との関係を深めるようにする。
家庭・地域との連携	・家庭と園とが一貫した生活リズムの中で、 食欲、 睡眠などの状態をありのままに受け止め、 安心して園生活が過ごせるようにする。 ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い支え、話し掛けたり、あやしたり、スキンシップをとることの大切さを伝えていく。 ・乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防などを知らせる。 ・保護者と直接話をしたり、 連絡帳に子どもの記録を丁寧に書きとめたりして、 園と家庭との連絡を密にして信頼関係を築き、 子どもの育ちについて見通しがもてるようにする。 ・園での遊びの様子を伝えたり、 参観日などで触れ合い遊びの機会を設けたりして、 家庭で親子で遊ぶヒントとなるような関わり方を知らせていく。

【０歳児】 ６か月から１歳未満

子どもの姿	・離乳食中期は、いろいろな食べ物の味に慣れ、形のある物を少しずつ食べる。離乳食後期になると、舌を動かし、 歯ぐきで潰して食べたり、 手づかみで食べたりしようとする。 ・お座りが安定し、 手を伸ばして玩具などをつかんだり、 もちかえたりする。 ・ずりばいから、 よつばい、 高ばいをし、 つかまり立ち、 伝い歩きをするようになる。 ・身近な大人との関係の中で、 自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとする。 ・甘えたり、 後追いして泣いたり、 人見知りをしたりする。 ・「マンマンマン」 等の反復的な喃語を発したり、 歌や手遊びに、 体を揺らしたりして喜ぶ。 ・興味のある物を指さしで伝えようとする。 ・つまむ、 つかむ、 たたく、 引っ張る、 物を落とす等、 手や足を使って遊ぶ。
生命の保持・情緒の安定	○清潔で衛生的な環境を整える。 ○保育者が抱いたりほほえみ掛けたり、甘えなどの依存欲求を満たしたりしてゆったりと関わり、情緒的に安定して過ごせるようにする。
ねらい	◎食事・睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。 ◎身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。 ◎見る・触れる・探索する等、身近な環境に自分から関わろうとする。
内容 健やかに伸び伸びと育つ（身体的発達） 身近な人と気持ちが通じ合う（社会的発達） 身近なものと関わり感性が育つ（精神的発達）	・離乳食を食べさせてもらったり、 自分でつまんで進んで食べようとしたりする。 ・個々のリズムで気持ちよく安心して眠る。 ・保育者と一緒に手を洗ったり、 鼻水をとってもらったりすることで、 気持ちよさを知る。 ・座る、 はう、 立つ、 伝い歩きなど全身運動を十分経験し探索活動をする。 ・両手に物を握ったり、 興味のある物をつまんだりして手を動かして遊ぶ。 ・思いを受け止めてもらい、 優しく応答してもらうことで安心して過ごす。 ・人の顔が分かり、 特定の保育者にあやしてもらうことを喜んだり、 知らない人を見て泣いたりする。 ・喃語が盛んになり、 気持ちや要求を「アーアー」「ウーウー」 などと声を出したり、 表情や身振りで伝えようとしたりする。 ・好きな絵本を繰り返し読んでもらうことで、 まねして言葉を発する。 ・身の回りの自然物を見たり触れたりする。 ・生活や遊びの中で、 様々な物に触れ、 音・形・色・手触り等に気付き、 感覚の働きを豊かにする。 ・あやし遊びに機嫌よく応じたり、 歌やリズムに合わせて手足を動かして遊んだりする。
環境構成	・離乳食を進める際には、保護者や栄養士などと連絡をとり、個に応じた、形状や量を検討する。 ・一人一人を大切にしながら、 安心して午睡できるようにする。 ・指先を使った遊びや寝返り、 はう、 伝い歩きなど全身を動かす遊びなど十分に楽しめるように、 衛生的で安全な環境を整える。 ・興味をもって遊びに集中し、 一人遊びが満足できるように、 スペースや時間や玩具を整える。 ・滑り台やマットを利用して、 登る、 すべる、 転がる等の様々な動きが楽しめるようにし、 保育者はすぐに支えられる位置につき、 安全に遊べるように配慮する。 ・保育者間で、 一人一人の子どもに対して共通した対応ができるよう連携をもつ。 ・個々の驚きや発見を大切に考え、 自然を感じたり、 自然物を見たり、 触れたりできるような散歩コースを選ぶ。 ・保育者と一緒に踊ったり体を揺らしたりして楽しめるように、 子どもの好きな手遊びや曲を用意する。
家庭・地域との連携	・保護者と子育てについての思いを共有し、 信頼関係を築き、 安心して子育てができるようにする。 ・ハイハイが十分でない子どもには、 ハイハイの経験を重ねることの大切さを発達の見通しと合わせて伝える。 ・大人が先回りしすぎずに待ち、 子どもが自分の意思を表す機会を大事にしてもらえるようにする。 ・連絡帳（検温、 食事、 睡眠、 排尿便、 投薬等）や送迎時を通して、 子どもの様子を伝え合い、状態を把握し、 共通理解をする。 ・アレルギーの有無を尋ね、 医師や指示書のもと、 対応する。 ・6 か月を過ぎると母体免疫が弱まり、 感染症にかかりやすくなるので、 クラスだよりや口頭、 掲示板などで、流行性疾患について特徴や情報を伝え、予防や早期発見、早期対応に努めてもらうよう促す。 ・園外保育で出会った人に保育者から声を掛けたり、 子どもと一緒に手を振ったりして地域の人との関わりをもつ。

【0歳児】 1歳から2歳未満

子どもの姿	・離乳が完了し、 幼児食が食べられるようになる。 ・一人で歩くことの楽しさを知り、 歩くことに慣れてくる。 ・歩き始め、 手を使い、 言葉を話すようになることにより、 身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。 ・「自分で」という気持ちが強くなり、 何でも自分でやろうとする。 ・周りの子どもへの関心が強くなり、 おもちゃの取り合いが始まる。 ・名前を呼ばれると喜び、 手をあげたり、 返事をしたりする。 ・「ワンワン」「ブーブー」など身近な人や動物、 乗り物などを指す一語文を話し始める。 1歳半には言葉が目覚ましく増え、 二語文を話す子どももいる。 ・玩具等を実物に見立てるなどし、 人や物との関わりが強まる。 ・保育者に絵本を読んでもらったり、 歌、 手遊びをしてもらったりすると、 まねをする。
生命の保持・情緒の安定	○子どもの生活リズムを丁寧に把握する。 ○生活の安定を図りながら自分でしようとする気持ちを尊重する。 ○ゆったりとした家庭的な雰囲気を大切にし、一人一人の甘えや欲求が十分に満たされるようにする。
ねらい	◎友達に興味を示したり、親しい大人に自分の気持ちを伝えたりしようとする。 ◎探索活動をする中で、身の回りのことに興味をもちながら、一人遊びを十分に楽しむ。 ◎生活遊びの中で、保育者のすることに興味をもったり、模倣したりすることを楽しむ。
内容 身近なものと関わり感性が育つ（精神的発達） 身近な人と気持ちが通じ合う（社会的発達） 健やかに伸び伸びと育つ（身体的発達）	・楽しい雰囲気の中で、 スプーンやフォーク等を使って自分で食べようとする。 ・おむつやオマルに排泄した後、 しぐさや言葉で知らせる。 また、 便器に慣れる。 ・ズボンや靴下等簡単な衣服を脱いだり、 ときには履いてみたりする。 ・積む、 つまむ、 転がす、 はがすなど手や指を使って遊ぶ。 ・保育者に見守られながら、 安心して好きな遊びを楽しんだり、 関わってもらったりすることを喜ぶ。 ・指さし、 身振り、 片言、 二語文などで思いを伝えようとする。 ・名前を呼ばれて返事をしたり、 保育者の言葉をまねて言おうとしたりする。 ・歌を歌ったり、 保育者とリズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。（小麦粉、片栗粉、米粘土、水、 砂、 土など） ・腕を左右、 上下、 丸く動かして、なぐり描きをする。 ・探索活動の中で、 様々な物を見たり触れたりする。 ・散歩や戸外遊びを通して、 虫や草花など自然に触れて遊ぶ。
環境構成	・一人一人の生活リズムに応じて、 安心して午睡や休息ができるようにゆったりとした気持ちで接するなど応答的な関わりをする。 ・衣服の着脱等がうまくできたときは、 しっかり褒め、 さりげなく手を添えるなどして、 自分でできた喜びが感じられるようにする。 ・自由に歩ける場を広くとり、 自分の意思で安全に歩けるようにする。 ・くぐったり、 登ったり、 すべったり、 転がしたりなど全身を使う遊具や、 はさんだり、 入れたり、 動かしたりする玩具や素材を用意する。 ・玩具の数に気を付け、 遊具や用具の点検をこまめに行うなど安全面に留意する。 ・安全な環境の戸外で、 自然物を見たり、 触れたりする機会をもつ。 ・安全に配慮しながら遊びの中で可塑性のある素材や物を用意し、 感触を楽しめるようにする。
家庭・地域との連携	・連絡ノートや送迎の時間を利用して、 園での様子を伝え安心感をもってもらう。 ・子育ての喜びや悩みなどを共感しながら信頼関係を築いていく。 ・家庭や保育所の様子を伝え合いながら、 食事、 睡眠、 排泄、 遊びなどの生活リズムを整えることが心身共に安定した生活につながることを理解し合う。 ・散歩や行事を通して、 地域の方と触れ合いをもつようにする。 ・「自分でやりたい」ことが、 成長の過程であることを伝え、 子どもの気持ちを受け止めて、 待つ姿勢も大切であることを伝える。 ・行動範囲の広がりとともに探索活動が盛んになることやその意味を伝え、 安全に十分に配慮しながら、子どもの興味や関心を見守り、 子どもの発見に共感していくことの大切さを伝える。

伊丹市が大切にしたいこと

愛情
尊い命と異なる個性とのふれ愛

保育者の援助

❤個人差に応じて、ゆったりと目を見て、微笑んだり、語り掛けたりするなど、温かな関わりをする。
❤アタッチメントを大切にし、話し掛けたり、体に触れたりしながら、心地よく過ごせるようにする。
❤食事はゆったりと落ち着いて対応し、「おいしいね」など言葉を掛けながら、喜んで食べられる雰囲気を作る。
❤子どもが安心して要求したり、訴えたりできるよう、優しく受け止め、言葉と動作を結び付けるような語り掛けなど、ゆったりと対話的で応答的に関わる。
❤保育者の愛情豊かな関わりにより、情緒の安定を図り、気持ちのよい生活が送れるようにする。
❤睡眠時などの呼吸、顔色、姿勢やベッド周りの安全に留意し、決めた時間毎に様子を確認し、記録をとる等、子どもの安全面に細心の注意をはらう。

自然
身近で豊かな自然とのふれ愛

自然とのふれあい

❤０歳児は、手に触れた物は口に入れることを想定し、自然物（木の実や石など）の数や大きさを確認する。

★外気の暖かさや冷たさを感じる。
★戸外で、石・水・泥や草花などの自然物に触れて遊ぶ。
★金魚やメダカなど、身近な生き物に気付き、興味をもって見る。
★年長児などが育てている草花や野菜を見たり、触れたり、匂いを嗅いだりする。

ことば
豊かで美しいことばや表現とのふれ愛

言葉や表現とのふれあい

◆保育者のあやし遊び。
◆保育者のひざの上で好きな絵本を見る。
◆多様な感情や思いを受け止め、気持ちのこもった言葉で応答する。

【絵本】
❤ひざの上で、保育者の読む心地よいリズムを感じながら、楽しい時間を過ごし、リズム感や繰り返しの楽しさが味わうことができる絵本。

・「いない　いない　ばあ」 作：松谷みよ子
・「じゃーじゃーびりびり」 作：まついのりこ
・「ごあいさつ」「いただきます」 作：きむらゆういち
・「だるまさんが」「だるまさんの」「だるまさんと」 作：かがくいひろし
・「なーらんだ」「くっついた」「おうちにかえろ」 作：三浦太郎
・「がたんごとん　がたんごとん」作：安西水丸

【歌】
❤一緒に触れ合いながら楽しむ。動きのある歌遊び。

♪バスごっこ
♪だるまさんだるまさん
♪手をたたきましょう
♪いとまき
♪げんこつやまのたぬきさん
♪きゃべつがキャキャキャ
♪パンダうさぎコアラ
♪むすんでひらいて
♪一本橋こちょこちょ
♪手はどこだ

コラム

おすすめ！ 植物遊び① ～0歳児～

花びらや葉っぱなどを、水に浮かべて置いておくと、
花びらや葉っぱの色や形が鮮やかに見えます。
0歳児は、浮いている花びらや葉っぱを見たり、触ったり
しながら興味をもちます。

紅葉した葉っぱや、いろいろな形の葉っぱをのれんにして、
窓辺や扉につるしておくと、風が吹くとゆらゆら揺れます。
そんな葉っぱが揺れる様子も、0歳児にとっては興味深いで
しょう。